

平成25年度事業報告

I 始めに

(事業環境の動向)

平成25年度は、その前年に打ち出された「アベノミクス」による円安・株高効果や平成26年4月からの消費税増税に先立つ需要前倒し効果等により、国内自動車販売が好調に推移した。これにより、年間のVICS車載機出荷台数は過去最大の450万台を超える水準となり、累計出荷台数も4千万台を突破し、メモリアルな年となった。

一方で、情報提供事業を効率的且つ安定的に運営するために必要となる財源確保の重要性が強く意識されるようになった。

(ITS世界会議東京2013から2020オリンピックへ)

9年ぶりに日本での開催となったITS世界会議が、69カ国2万1千人の参加者を得て10月14日～18日に東京ビッグサイト他で開催され、プローブ情報などのビッグデータの活用、交通事故ゼロ/渋滞ゼロを目指す自動運転技術の実施への議論も深まった。その直前の9月には、2020年オリンピック/パラリンピックが東京で開催されることが決定し、次世代VICSさらにはその後の新たな情報提供サービスの実現など、VICSセンターの中長期の事業計画への期待が高まった。

II 平成25年度事業報告

1 総論

前項の事業環境の動向等を踏まえ、平成25年度は、一般財団法人への移行、京橋センターの設備更新、次世代VICSの実用化などの活動を重点的に推進した。

(一般財団法人への移行)

前年より準備を進めてきた一般財団法人への移行を、予定通り4月1日に実施し、定款・事務局規程の見直し、新会計基準への移行などへ遺漏なく対応するとともに、中期的な視野に立った組織体制への移行を完了した。

新法人への移行を期に、ステークホルダーに対する情報開示の拡大、リレーションシップ強化のために「事業報告会」を初めて開催した。また、財務基盤の強化の一環として、情報提供事業を効率的且つ安定的に運営するために必要となる財源確保のために、「情報提供サービス継続引当資産」を新設し、今年度より積み立てを開始した。さらに、外部委託契約については費用妥当性を評価することをルール化し、コスト削減を推進する体制を強化した。

(京橋センター設備更新)

前年より進めてきた京橋センター設備の更新工事が7月に竣工し、運用を開始した。

これに合わせてマルチモニタの更新を実施し、管理規程等も見直し、監視体制の強化をも実現した。

(次世代VICS実用化)

かねてより研究・開発を進めてきた「次世代VICS」実用化の時期を平成27年4月と定め、その基盤となる「新SI対応車載機向けの仕様書」、「共通ネットワーク仕様書」の改版・追加等、新たな技術開示資料を制定した。また、FM多重放送の情報伝送容量拡大を実現するためNHKと調整を図り、新SI利用について年度内に合意を得るに至った。これらにより、平成27年4月より新サービスとして提供を開始することを機関決定した。

これに関連して、新サービス提供を確実に実現するために横断的プロジェクト・チーム「新SI実用化プロジェクト」を設置し、課題の早期発見・対策を実現するための「見える化」を徹底した。

また、9年ぶりに日本での開催となったITS世界会議を国内および海外のITS関係者等に「次世代VICS」実用化への取り組みを知らせる絶好の機会と捉え、論文発表、ショーケース、展示などの場を活用して情報発信・来場者対応を実施し、理解を広めることができた。

(その他)

電波法に基づくFM多重放送の5年毎の一斉再免許の申請を進め、併せて業務手順書等の整備を完了し、予定通り全国518カ所の放送局の再免許の交付を得た。

当財団が技術開示を行っている電波・光ビーコンの後継機種に対する普及促進策として、電波ビーコン5.8GHz帯のモニターキャンペーン、高度化光ビーコン対応の車載機開発支援、電波ビーコン2.4GHz帯の情報提供停止（8年後）の広報支援、を実施した。

2 事業遂行状況

次世代VICSの事業化が決定されたことに伴い、次世代VICSのコンテンツ整備等の業務を、調査研究事業からVICS対応車載機向けの情報提供事業に移行させる予算整理を行ったため、以下では再編後の構成で記載する。

(1) 道路交通情報の収集、編集及び提供事業

①現行VICS対応車載機向けの情報提供

i) 安定かつ継続した道路交通情報提供サービスの確保

- ・前年度から着手していた京橋センターの更新工事が7月に竣工し運用を開始した。これに合わせてマルチモニタの更新を実施し、管理規程等も見直し、監視体制の強化をも実現した。
- ・運用開始後6年を経過する第2システムセンターについては、立地、運用、システム形態に関する更新方針の検討を完了し、平成28年度の稼働開始に目処付けすることができた。

- ・電波法に基づくFM多重放送の5年毎の一斉再免許の申請を計画通り進め、併せて業務手順書の整備を完了し、予定通り全国518カ所の放送局の再免許の交付を得た。
- ・前年度策定した情報提供に関するサービスレベルの向上方策に基づいて、衛星バックアップシステムの整備を進め、9局の放送所設備の設置工事を計画通り完了した。

ii) 提供情報の内容充実と精度向上

- ・交通管理者、道路管理者等情報源との定期連絡会を、管制システムメーカーや地方整備局にも拡大し、情報提供改善活動を推進した。
- ・竣工した京橋センターの新システムを活用した各種分析ツールの整備に加え、センターが受信しているデータを一括して分析できるBIツールも導入し、運用を開始した。
- ・FM多重放送の難受信エリア推定シミュレーションソフトに改良を加え、その精度・機能の向上を図り、災害時における有効な対策を検討する基盤を整備した。
- ・提供情報の品質維持策として、光ビーコンアップリンクデータを生成する車載機の開発を完了し、情報源の情報収集機能の維持・向上に向けた方策を共同で実施する体制を整えた。
- ・高度化光ビーコン対応の車載機開発については、UTMS協会と連携して機能向上、コスト削減の具体的方策を検討し、車載機の更なる普及による渋滞情報収集機能の向上を進める基盤技術に目処をつけた。
- ・臨時駐車場情報提供システムは、次世代サービスのイベント駐車場情報に発展的に統合させることとし、その情報は日本道路交通情報センター経由で受信する方向で検討することとした。
- ・災害時等の有事における臨時災害局設備の実運用の強化に向け、車載機に手動又はシークでのチューニング機能を保持しているかの実態調査を実施した。これに基づいて一部メーカーの車載機改修の進め方、更にはコミュニティFM放送局等と連携した運営要領の検討に着手した。
- ・ユーザーから直接ニーズ、意見を吸い上げる仕組みとしてサポーター制度の再構築を完了し、次年度より運用を開始していくこととした。
- ・前年度から試行中のFM多重放送旧符号方式による渋滞情報提供サービスの停止に関する窓口業務の委託に加え、9月よりナビダイヤルによるVIC Sサービス関連の問合せ業務の外部委託を完了した。併せて、3月末より2.4GHz電波ビーコンの停波の一次窓口業務も外部委託した。

②次世代VIC S対応車載機に向けた情報提供

- ・FM多重放送のVIC S情報伝送容量拡大のために、NHKとの賃借契約の改定交渉、車載機仕様の改定のためのメーカーとの協議など関係機関との所要の調整等を進めた。11月には技術開示先に対して「新SI対応車載機技術仕様書」を開示し、3月には「共通ネットワーク仕様書」の改定と追補版を作成し、関係者への配布を

完了し、平成27年4月に伝送容量拡大等の新サービスを立ち上げる目処をつけることができた。

- ・FM多重放送の難受信対策として、災害時等にテレマティクス機能を活用する方策について検討を進め、ITS世界会議にて論文発表をした。
- ・FM多重放送の新SI対応スクランブルLSIは、サンプル評価を完了し、技術仕様書を発行し、実用化の目途を付けた。
- ・次世代VICSにおけるプローブ情報の活用方法について、関係機関との協議を進め、情報を流す経路、加工・編集の役割分担などについて議論を整理した。これと並行して、東京都区部等でのタクシープローブ情報の継続的・安定的な入手体制構築に向けた関係機関との協議を進めた。
- ・次世代VICSで提供する災害情報、異常気象情報等のコンテンツの入手体制の整備、システム開発を進め、平成27年4月より集中豪雨情報として50mm/hを越える雨量の地域を表示する情報を提供する目処をつけることができた。

③事業者向け情報提供

- ・事業者向け情報提供においてで予定よりの課題であった災害時のバックアップ機能の強化策について、委託者である日本道路交通情報センターと協議して第2システムセンター内にバックアップシステムの構築を完了し、今後、事業者ごとに順次実運用に切り替えていく準備が整った。
- ・スマートフォンの利活用などによる情報提供事業など、二次事業者が行う新たな携帯端末による道路交通情報提供事業の動向調査を前年度に引き続き実施した。

(2) 広報・普及促進事業

- ・VICSシステムの普及促進活動に関し、事業推進部、総務部、サービス運用部に分かれて実施してきた体制を見直し、プレゼンテーションからイベントまで一貫した普及促進策を展開できるよう事業推進部に統合再編し、広報ツール、コンテンツの見直しを実施した。
- ・技術開示を行っている電波・光ビーコンの後継機種に対する普及促進策として、電波ビーコン5.8GHz帯のモニターキャンペーンを実施し、併せて電波ビーコン2.4GHz帯の8年後の情報提供停止の広報支援を実施した。
- ・10月より連続的に開催されたCEATEC、ITS世界会議、東京及び地方モーターショーに出展し、次世代VICS実用化に向けた取り組みを、事業者、ITS専門家、ユーザー等に訴求展開した。
- ・地域イベントや関連施設への貸出用のシミュレーターを改良し、新たな貸出要請にも対応できる体制を整えた。
- ・関係企業・団体とのホームページの相互リンクの拡大を進め、今年度はNEXCO、車載機メーカーなど13社・団体と新たに相互リンクを構築し、これによりホームページアクセス数を増やすことができた。
- ・新法人への移行を機に、「年次報告」の改定・配布、「事業報告会」の開催など賛助

会員向けのサービス/情報公開の拡充を進め、賛助会員を4社増やすことができた。

(3) 調査・研究事業

①次世代VICS研究開発の継続

- ・前年度に引き続き、次世代VICSシステムの情報提供に用いる新たなリンクの構築に向けた検討を関係各団体との連携のもとに推進した。
- ・次世代VICSシステムの社会経済効果の寄与について、前年度より継続して交通流シミュレーションにもとづき研究を進め、その成果を理事会及び高度化研究委員会及び報告した。
- ・ITS世界会議において、次世代VICSシステムの実用化に向けた研究開発成果を論文にまとめ10編発表し、また次世代VICSについて議論するために2件のスペシャルインタレストセッションを企画・運営した。

②中長期的課題に対する取り組み

- ・将来の放送と通信の融合についても視野に入れた新たな通信メディアに関する調査研究を進め、ITS世界会議にて論文発表をした。
- ・インフラ協調システムの実用化に向けた社外の動向を継続的に調査し、センターが期待される役割等について、内部での検討を進めた。
- ・今後急増すると予想される高齢者への対策として、運転挙動、情報認識の観点から高齢ドライバーの特質を抽出するとともに、情報サービスのあり方に関する研究を進め、高度化研究委員会で報告した。
- ・交通情報の精度向上方策としてプローブ情報の利活用を通じた道路交通情報の品質確保に関する研究を推進した。

(4) 知的財産権等の維持・管理

- ・平成27年度中にVICS-LSIに関する特許期限が到来するため、FM多重放送を含む多様なメディア活用をも視野に入れた新たな特許を申請した。
- ・新SI導入を機にこれに関する技術開示資料の整備を行い、車載機メーカー等が遅滞なく新SI対応車載機の開発が行えるよう技術開示を実施した。
- ・新たな知的財産権等の確保、管理の強化を進め、次世代VICSコンテンツ提供および新たなメディア関係で、2件の特許申請を完了した。

(5) 国内外関係機関・団体との交流及び標準化の推進

- ・10月に開催されたITS世界会議を、国内および海外のITS関係者等に「次世代VICS」を知らせる絶好の機会と捉え、総力を挙げて、情報発信・来場者対応を実施した。前年比6倍規模の展示、ショーケース/テクニカルビジットの企画・運営、10編の論文発表、2件のスペシャルインタレストセッションの企画・運営を通して、次世代VICSを紹介した。
- ・新法人への移行を機に、賛助会員企業・団体を始めとしたステークホルダーに対す

る情報開示の拡大、リレーションシップの強化を目的に、「事業報告会」を初めて開催した。前年度から始めた「年次報告」の編纂・配布と併せて、事業報告会を次年度以降も継続していくこととした。

(6) 業務管理その他目的達成のための事業

- ・ 定款・事務局規程の見直し、新会計基準への移行等、新法人移行作業は、遺漏なく完了させた。また新法人への移行に伴い、中期的な視野に立った組織体制への移行を完了し、併せて次世代VIC S実用化に向けた期間限定のプロジェクト・チーム体制を導入し、効率的に組織運営を進めた。
- ・ 情報提供事業を効率的且つ安定的に運営するために必要となる財源確保のために、「情報提供サービス継続引当資産」を新設し、今年度より積み立てを開始した。
- ・ 外部委託契約については費用妥当性を評価することをルール化し、コスト削減を推進する体制を強化した。

Ⅲ 事業計画遂行のための会議の開催

(1) 理事会

- ① 平成25年 5月22日 平成25年度第1回理事会
第1号議案 平成24年度事業報告(案)並びに平成24年度収支計算書(案)及び平成24年度財務諸表(案)承認の件
第2号議案 評議員選定委員会設置規程制定につき承認の件
第3号議案 評議員選定委員会委員選任の件
第4号議案 評議員候補者の推薦につき承認の件
第5号議案 会計監査人に対する報酬につき承認の件
第6号議案 事務局規程一部改正につき承認の件
第7号議案 事務局組織の改編並びに組織規程改正につき承認の件
第8号議案 会計処理規程一部改正につき承認の件
第9号議案 平成25年度定時評議員会招集の件
以上の審議が行われ、いずれも原案通り承認された。

- ② 平成25年11月 6日 平成25年度第2回理事会
第1号議案 FM多重放送における新S I導入につき承認の件
第2号議案 新S I対応車載機開発のための技術開示につき承認の件
以上の審議が行われ、いずれも原案通り承認された。

- ③ 平成26年 3月11日 平成25年度第3回理事会
第1号議案 平成25年度補正収支予算書(案)承認の件
第2号議案 情報提供サービス継続引当資産創設につき承認の件
第3号議案 平成26年度事業計画(案)及び収支予算書(案)承認の件
第4号議案 新S I対応車載機への提供コンテンツ(案)につき承認の件
第5号議案 事務局組織の改編並びに組織規程改正につき承認の件
以上の審議が行われ、いずれも原案通り承認された。

(2) 評議員会

- ① 平成25年 5月22日 平成25年度定時評議員会
第1号議案 平成24年度財務諸表(案)承認の件
第2号議案 役員報酬規程の一部改正等につき承認の件
第3号議案 役員退職手当支給規程の一部改正等につき承認の件
以上の審議が行われ、いずれも原案通り承認された。

(4) 第V期V I C S高度化研究委員会

次世代V I C Sプロジェクトで検討・具現化した内容について、次工程の実証実験に結び付けるための総意反映と合意形成を図る。

- ① 平成25年 7月18日 第V期第4回 (通算第27回)
- ② 平成25年12月26日 第V期第5回 (通算第28回)
- ③ 平成26年 3月 6日 第V期第6回 (通算第29回)

(5) 事業懇談会

理事企業等との情報交換会。

- ① 平成25年 5月17日 平成25年度第1回
- ② 平成25年 9月12日 平成25年度第2回
- ③ 平成25年10月25日 平成25年度第3回
- ④ 平成26年 2月28日 平成25年度第4回

(6) 車載機連絡会

車載機メーカーとの情報交換会。

- ① 平成25年 5月 9日 平成25年度第1回 (通算第44回)
- ② 平成25年 9月 4日 平成25年度第2回 (通算第45回)
- ③ 平成25年12月 3日 平成25年度第3回 (通算第46回)
- ④ 平成26年 2月13日 平成25年度第4回 (通算第47回)

以上